

平成19年度事業報告

自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日

事業の概要

・ 展覧会の開催

1. 第35回「日本の書展」

(1) 関西展

会 期 平成19年5月31日(木)～6月3日(日)

会 場 大阪国際会議場(3階イベントホール)

主 催 (財)全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後 援 文化庁

協 賛 (社)日本書芸院

関西展の出品数は、巨匠20点、代表82点、招待380点、秀抜選697点、合計1179点、会期中の入場者数は約4,400名だった。今回で7回目を迎えた今展だが、産経新聞社の紙面協力も得て、当会最大の大型展覧会として質量共に充実している。

会期初日の5月31日(木)18時から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて約470名の出席があった。

レセプションでは、当会会長の犬養康彦、続いて理事長の津金孝邦から主催者代表挨拶、産経新聞大阪本社大阪代表補佐 八木諠信氏から共催者挨拶があった後、当会顧問 榎倉香邨氏の書家代表挨拶へと続き、名誉顧問 高木聖鶴氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分、常務理事 栗原蘆水氏の閉会挨拶によって終了した。

(2) 中部展

第1会場

会 期 平成19年6月6日(水)～6月10日(日)

会 場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

第2会場

会 期 平成19年6月10日(日)～6月13日(水)

会 場 愛知県産業貿易館 本館(3階 第2展示場・第3展示場)

主 催 (財)全国書美術振興会 中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市 各県市教育委員会
東海テレビ放送

協 賛 (社)中部日本書道会

中部展の出品数は、巨匠20点、代表82点、招待132点、秀抜選651点、合計885点、会期中の入場者数は約5,100名だった。これは、中日新聞社の紙面ならびに東海テレビ放送の放映の協力が大きいと思われる。

今展は展示数の大幅な増加により、例年使用の愛知県美術館ギャラリーを第1会場、愛知県産業貿易館を第2会場として、2会場開催とした。

2会場の会期中間日にあたる6月9日(土)18時30分から、名古屋東急ホテル3階ヴェルサイユの間において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて約330名の出席があった。

レセプションでは、当会会長の犬養康彦、続いて理事長の津金孝邦から主催者代表挨拶、中日新聞社代表取締役社長 大島寅夫氏から共催者挨拶があった後、当会顧問 黒野清宇氏の書家代表挨拶へと続き、理事 樽本樹邨氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、20時に終了した。

(3) 東京展

会 期 平成19年6月14日(木)～6月24日(日)19日(火)は休館日
会 場 国立新美術館
主 催 (財)全国書美術振興会 (株)共同通信社
後 援 文化庁

東京展の出品数は、巨匠20点、代表82点、招待553点、秀抜選925点、合計1580点、会期中の入場者数は、約18,000名だった。

会期が倍の2週間になったこともあるが、新設の国立新美術館を使用することによって、これまで2会場で行っていた展覧会を1会場で開催できたことと、また、美術館や東京ミッドタウンの話題性や、国立新美術館の企画展の相乗効果によって、入場者数が例年の約2.4倍になった。

6月14日(水)12時30分から、ホテルオークラ東京本館1階「平安の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて約740名の出席があった。

レセプションでは、当会会長の犬養康彦、続いて理事長の津金孝邦から主催者代表挨拶、(株)共同通信社代表取締役専務 池内秀樹氏から共催者挨拶があった後、文化庁長官の青木保氏から来賓代表の挨拶を頂いた。続いて、当会名誉顧問であられた故・成瀬映山氏の書家代表挨拶へと続き、外務省広報文化交流部部長 山本忠通氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(4) 九州展

会 期 平成19年7月3日(火)～7月8日(日)
会 場 福岡県立美術館
主 催 (財)全国書美術振興会 西日本新聞社
後 援 文化庁

九州展の出品数は、巨匠20点、代表82点、招待106点、秀抜選152点、合計360点、会期中の入場者数は約1880名だった。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

会期初日の7月3日(火)12時30分から、ホテル日航福岡5階「志賀の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて約120名の出席があった。

レセプションでは、当会会長の犬養康彦、続いて理事長の津金孝邦から主催者代表挨拶、西日本新聞社代表取締役社長 多田昭重氏から共催者挨拶があった後、当会常務理事 栗原蘆水氏の書家代表挨拶および発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(5) 巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の102点については、東京展、中部展、関西展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方8カ所を巡回した。

第35回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会場	会期	地元出品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館美術館	19.7.13~7.16	218	1,478
2	栃木	宇都宮市	下野新聞社	福田屋ヨットクラブ 宇都宮店	19.8.30~9.4	255	3,028
3	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	19.9.20~9.24	300	1,400
4	広島	広島市	中国新聞企画開発	福屋広島駅前店	19.10.4~10.9	739	26,322
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店	19.10.23~10.28	563	5,160
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	20.1.30~2.3	255	3,139
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	20.3.7~3.10	209	1,692
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	20.4.19~4.24	299	2,407

・出版物の刊行

1. 図録

- (1) 第35回「日本の書展」巡回展 7,000冊
- (2) 第35回「日本の書展」関西展 2,000冊
- (3) 第35回「日本の書展」中部展 1,400冊
- (4) 第35回「日本の書展」東京展 2,800冊
- (5) 第35回「日本の書展」九州展 1,000冊

・書美術功労者の顕彰

日本芸術院賞を受賞された池田桂鳳氏を顕彰し、記念品を贈呈した。

以上